門 眞一郎 議員

Q 国道54号の展望は

大雪特別警報や、大雪に対する緊急発表が行われるような異例の降雪があるとき、チェーン規制する箇所に赤名峠が指定され、多くの町民から不安の声が上がった。

悪い意味で全国に名前が知れ渡り、定住や県外からの入学希望者に悪影響が出るのではないかと心配している。

①国交省が示した、大雪時の道路交通確保対策に対する対応状況は。

②検問、待機及びチェーン着脱場の予定地は道の駅赤来高原周辺だが、どのような計画か。

③除雪車両を通すため、退避する車両待機スペースと立往生車両を牽引する車両の配置は。

④旧ドライブイン赤名54跡地で、チェックや待機が可能だが、候補地に挙がらなかったのか。地権者に寄付の意向があると聞くが。

⑤交通量は減ったが、尾道松江線の補完道として重要であり、本町の大動脈だ。

この機会に、国に対して十分な予算措置を求め、沿線の保全に万全を期すべきだ。

2つのトンネルは付け替えしかない。声を挙げ続けるべき。

老朽化が進む赤名トンネル

A 引続き維持・整備求める

町長 山碕 英樹

日ごろより、国道54号の管理・整備が疎かになってはならないと、国交省へ伝えている。

①昨年11月末、国道54号にチェーン規制が適応されるとの情報を得た。

国交省に説明を求めたが、規制区間は広範囲で、対象は全車両。規制は生活への影響が大きいことから、区間縮小の申し入れを行った。

上赤名地区で国交省との意見交換会を行い、2・5キロ区間を規制対象とすることになった。

②道の駅赤来高原、ゆめランド布野が、検問、待機及びチェーン着脱場として指定された。

赤来高原は狭いので、役場の駐車場も利用する状況はある。

③要請により、町の除雪車で除雪や立往生車両除去に協力する。車両待機スペースは赤名と布野の道の駅で、牽引車両は晴雲トンネル付近、布野の登坂車線付近に配置されている。

④ドライブイン赤名54跡地は、国交省と協議したが利用の考えはないとのこと。

⑤国道54号の役割は変わりない。災害等で通行止めが生じたときは、尾道松江線の補完道としての機能を発揮している。引き続き、道路維持・整備・安全確保を求める。

また、トンネルの付け替えは難しく、現実路線として今の形での街道を要望している。

今後も総合的な調整を図って行きたい。

景山 登美男 議員

Q 仕事と子育ての両立を

昨年の3月議会で、小学校の放課後・夏休み等の長期休業期間に、昼間に保護者がいない家庭への支援のあり方を質問をした。

教育長は「さまざまな支援に取り組んでいるが、要望に十分に応えられていない。アンケートを実施しており、結果を踏まえ改善に努める」との答弁があった。アンケートの結果と改善されたもの、今後改善を予定しているものは。

「住みたい田舎」ランキングで日本一に輝いたが、子育て支援の質・量の充実により、子育てをしながら仕事を続けることができる社会の実現を図り、名実ともに子育て世代が住みやすい町にすべきと思うが、町長の決意は。

A 要望に応えたい

教育長 矢飼 斉

放課後の居場所づくり事業では、現在の場所が良いとの意見が多いものの、頓原地区では、学校と公民館が半々だった。長期休業中の児童クラブ事業は、4地区での開設の要望があった。

実施時間では延長の希望が多かったため、開始時間を午前8時15分から午前8時に変更したが、終了時間を午後6時までとすることは、人員の確保が困難であることから対応できていない。

A 子育て世代が住みよい町に

町長 山碕 英樹

「住みたい田舎」ランキング日本一は、定住支援制度や24時間対応の病院、保育料や医療費への助成、町全体で子どもを見守る仕組みなどが評価されたものである。

今後さらに、飯南町のヒト、モノ、総力を挙げて子育て世代が住みよい町にしたい。

住みたい田舎ランキングで1位に輝く

Q 地域おこし協力隊の活用を

地域おこし協力隊は、地域おこし支援や、観光振興、農林業への従事、住民の生活支援などにあたるとともに、その地域への定住・定着を図るとなっている。

本町では、平成22年4月の5名に始まり、現在の12名まで、のべ32名が地域の元気づくりに協力している。

また、活動期間を終了した20名の隊員のうち、町内に6名、他に4名が県内に定着している。

この制度に対してのこれまでの総括と今後の活用について問う。

A さまざまな分野で活用を

町長 山碕 英樹

地域おこし協力隊は、積極的な活動により地域や団体に活力を与え、担い手として十分に力を発揮している。引き続き、さまざまな分野で本制度を活用していきたい。